



RSウイルスワクチンについてと 地域医療の充実について

岡野 陽子 議員



質問 令和8年4月より、RSウイルスワクチンの定期接種が行われます。ワクチンの予防効果は。

答弁 妊婦に接種することで、抗体が胎児に移行し、生まれた新生児や乳児の下気道疾患を予防します。

質問 ワクチン接種後の副反応について伺います。

答弁 10%以上の方に接種部位の痛みや頭痛、筋肉痛があるとされ、まれにアナフィラキシー等の重篤症状を起す場合があります。

質問 効果と副反応の周知方法について伺います。

答弁 ワクチンの効果と副反応等のリスクを理解していただくため、予診票等を

配付する際に、職員が直接説明をする予定です。効果と副反応の正しい理解のため、さらなる周知方法を検討していきます。

意見 本定例会に「mRNAワクチン（レプリコンワクチンを含む）接種事業中止の意見書提出を求める請願書」が提出されました。近い将来、mRNA技術はRSウイルスにも応用されると思われま

り情報発信をしてください。**質問** 超高齢社会の現在、かかりつけ医の充実が重要ですが、高齢化の波は、かかりつけ医にも及びます。本市の地域医療の現状は。

質問 地域医療の持続可能性に対しては、医療体制の確保が重要です。医療空白を作らないための今後の地域医療について、市長の考えを伺います。

答弁 市内の日常的に軽症時の診療等ができる医療機関は47機関、館林市邑楽郡医師会所属の医師の平均年齢は64・7歳、60歳以上は29人です。かかりつけ医の医師確保、事業継続に向け、さらに取り組んでいく必要があると認識しています。

答弁 急性期治療から在宅医療・介護まで切れ目なく一体的に提供する体制の継続が地域医療の充実につながると考え、医師会、医療機関、市民と協働し、関係機関と緊密に連携しながら医療の充実、持続可能性の確保に全力で取り組みます。



ゴミ袋の有料化とゴミの減量化について

篠木 正明 議員



質問 ゴミ袋の有料化の目的は何ですか。

答弁 ゴミの減量化とゴミの適正排出、違反ゴミ対策です。分別の標記をした指定袋を使用することで、ルール違反のゴミが一日で判別できるようになり、指導や啓発が効果的に行えます。

質問 ゴミ袋の料金にゴミ

の処理費用を上乗せするのであればゴミの処理費用を乗せなくても、その効果が得られるのではないのですか。

る考え方があります。**質問** 有料化すれば、ゴミの排出量が少ない人も負担が増えるのですから、不満が出るのではないかと思います。

直後には10%から30%程度の減量効果が確認されています。**質問** ゴミの回収量は減るかもしれませんが、ゴミの発生自体を少なくしなければ、回収量が減った分はどこに行ったのかという問題があります。それが不法投棄につながる懸念があります。また、ゴミ袋を有料化しても、当初は減るけれど、数年すると増えてきます。一時的にゴミを減らすために、市民負担を増や

してよいのかと思います。**答弁** ゴミ袋を有料化する前にやるべきことは残っています。分別を徹底すれば、可燃ゴミを6割減らせる可能性があります。生ゴミを資源化すれば、もっと減らせます。そこに力を入れるべきではないのですか。

答弁 これまでに、いろいろな手段でやってきました。引き続きの周知啓発とともに、様々な施策を考える時期になっていると感じています。